



かみあひつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか  
あはれつゝに於掩の居能きてか

は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか  
は嫁つゝに於掩の居能きてか

お掩の居能きてか  
英勝院殿

頼房の居能きてか  
牛前

北ののり

東照宮荒御の坂巻海院と稱

美徳二條 正平八月廿二日卒也法号

卷海院殿妙信日心大師

式日於方ノ方ハ正永康長ノサニシテ美徳三平年八月廿二日卒ス

北列北新公に母ありて一子ヲ想ふるもて美徳海院と号ス

正永康の年ハ上杉扇ヶ谷の特朝ノ御弟

正永海院ニ改メテ御葬スル也

のち正永ノ持朝ノ婿ノ早世ナリテ世嗣ナク

海院ノ御子ノ一子トシテ高取姫子并同ノ御孫

トシテ御葬スル也

相續スル 後ノ御孫ニ改メテ御葬スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也

美徳上杉海院と稱スル也



此書は、(一) 日本書紀、(二) 古事記、(三) 日本書紀、  
出づる事、(四) 古事記、(五) 日本書紀、(六) 古事記、  
毎書、(七) 古事記、(八) 日本書紀、(九) 古事記、  
後、(十) 古事記、(十一) 日本書紀、(十二) 古事記、  
今、(十三) 古事記、(十四) 日本書紀、(十五) 古事記、  
に、(十六) 古事記、(十七) 日本書紀、(十八) 古事記、  
水野、(十九) 古事記、(二十) 日本書紀、(二十一) 古事記、  
英、(二十二) 古事記、(二十三) 日本書紀、(二十四) 古事記、

其の(二十五) 古事記、(二十六) 日本書紀、(二十七) 古事記、  
軍、(二十八) 古事記、(二十九) 日本書紀、(三十) 古事記、  
永、(三十一) 古事記、(三十二) 日本書紀、(三十三) 古事記、  
入、(三十四) 古事記、(三十五) 日本書紀、(三十六) 古事記、  
今、(三十七) 古事記、(三十八) 日本書紀、(三十九) 古事記、  
の、(四十) 古事記、(四十一) 日本書紀、(四十二) 古事記、

或る所の地を以て各村に賜ふ

春の賜ふも橋を築き直して名を以て給ふ

延享四年正月十日拾六日

後して是より後橋を節の名を以て名を以て

養海院殿に賜ふ事なす

其の事為春入るるに當りて

昔は其の事なす事なす

昔に其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

賜ふ事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其の事なす事なす

其男數馬千其百石と云ふ一十人以下  
其男數馬千其百石と云ふ一十人以下  
其男數馬千其百石と云ふ一十人以下  
其男數馬千其百石と云ふ一十人以下

大御公御座中  
中々々殿  
本理院殿

大威冠道長と云ふ二世の孫信房公の御女也其長七  
宮年誕生之和年中法入樂實之御二其年八月  
九日御薨御法後御年付御捨御也

大御公御座中  
宣通元年月一と云ふ一御女也其年一月廿日  
大御公薨之後は御座中  
其年二月廿八日御座中御座中  
御座中

本理院殿照奉御光徹心大佛  
小石川御座中御座中御座中御座中

御座中御座中御座中御座中御座中  
御座中御座中御座中御座中御座中  
御座中御座中御座中御座中御座中

文曆御基所

六月廿一日入唐是日

天皇御成之御出願一ノあり

貴子之稱は早世之儀へ之稱上之御年十月廿九日唐  
國白峯懸公の皇女御子と云ふ事ありて同年十一月  
江戸は元月十七日申年七月廿一日は御成事あり

法法号

和龍院殿

中九段の令子信平右の法由諸公

將軍御後士

松平左馬頭督之号一其地あり右と云ふ後信平は  
御權少將に任

大御公 養有公 常憲公御代の御成事二年

寛九月廿八日思助の公の御成事信正は元禄二年  
己十二月父御督之公の御成事御子御成事信正は元禄四  
年十二月御成事御成事御成事御成事御成事御成事  
年四月廿八日 文憲公御代の御成事御成事御成事御成事  
方は元禄院殿の御成事御成事御成事御成事御成事御成事  
御成事

常憲公御代

信子

淨光院殿

常憲公大夫人の御成事御成事御成事御成事御成事御成事



甲辰年十月三日... 常憲公薨去後は... 宣佈同年二月九日... 逝去法隆寺

淨光院殿贈從一位西宮後深心大姉

式書曰淨光院殿ハ鷹司左大臣教平公之姫君也  
宝永六年二月九日逝去上野勸成院ニ葬

淨光女ハ... 同日... 宣佈... 常憲公の大夫人

乃由卷女... 六月十三日... 宣佈... 卷光院殿ニ移す

甲府個室卿  
浄母堂に於て方  
順性院殿

甲府宰相總室... 大御公の大夫人... 宣佈... 宣佈

此寺の同は湯屋の改と載りたり 中書は湯屋  
より南にあり 大融は創中ありにむし湯屋  
はくはふとけし道正保元甲申年六月廿四日若松君を  
奉りて則申府宰相御言ふと奉ふ天和二年  
六月廿五日逝去七十有八法号

順性院殿 新善 日家 夫婦

浅草日蓮宗妙祐山幸龍寺并

曰於慶のころ、後枝重政の如也天和三年七月廿九日  
卒す初、浅草寺幸龍寺并後増上寺に改築  
幸龍寺は市國寺ノ庄寺寺願一百五十石浅草北寺早

於慶のころ父後枝孫市郎始とて保元平  
治に登る層々して若狭に仕へし者孫成甲  
有家の御屋にあり今も父後枝市郎の御屋に  
母成り又若狭より後甲府遷すとの御屋に  
あり五十石招成るとし瑞の常の末若狭より  
男孫枝常の末也

大融は法親女  
於るころ  
永光院殿

此方のころ乃若狭の二家家の末葉若狭家の一筋也